

<ホール計画>

●コンセプト

オーケストラ・オペラから伝統芸能まで対応するホール

- 秩父にはオペラやバレエから和楽器や雅楽など様々な伝統芸能文化があります。それらの文化を継承発展するためのホールとして、様々な舞台演目に対して使いやすいホールを目指します。

郷土の木に包まれた一体感のあるホール

- 舞台までの最大視距離を30m以下に抑え、演者の表情が見える一体感のあるホールとします。
- ホールの内装には秩父産の木材を効果的に利用し、郷土の木に包まれたホールとします。

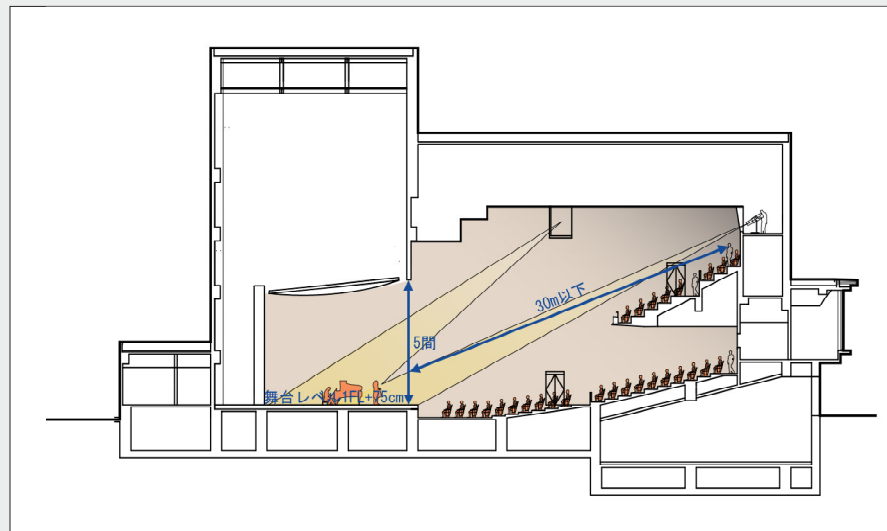
●客席構成・来館者動線

1階席700席、バルコニー席300席による客席構成

- 1階席を約700席、2階バルコニー席を約300席とし、1000人規模のイベントに加え、1階席のみを利用する700人規模のイベントにも照明等の工夫により満席感が得られる構成とします。
- 演者の表情や細かな身振りが観賞できる、舞台より15mのエリアに、車いす席・難聴者席を設置し、だれもがよい環境で観賞できるよう配慮します。

ギャラリーホワイエ

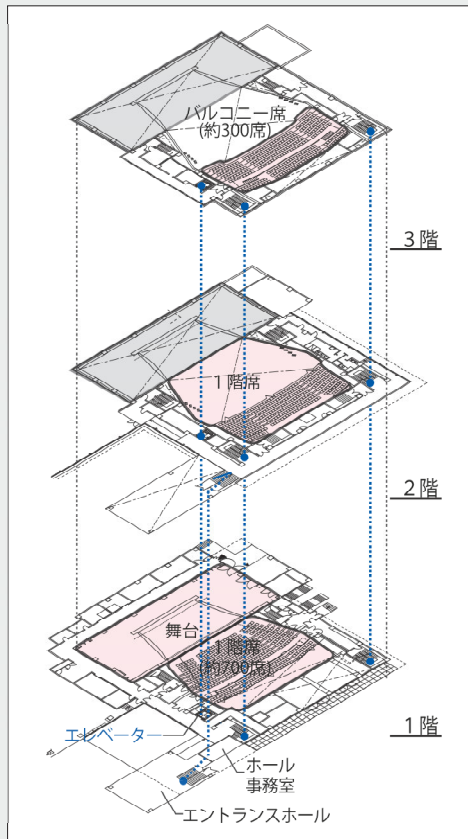
- 1階、2階のホワイエはピクチャーレールや展示照明等の設置により、ギャラリーとして利用可能な壁面を用意します。



●客席構成



●木に包まれたホールのイメージ



●ホール来館者動線計画

●舞台・楽屋

適切な舞台寸法と舞台レベル

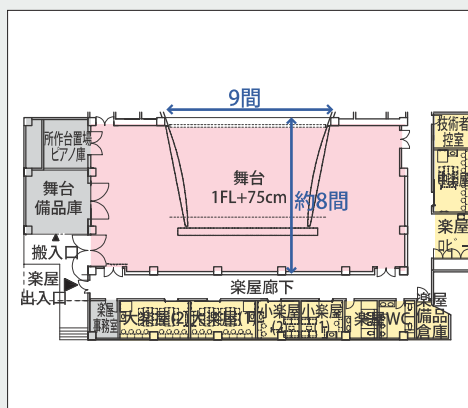
- 舞台間口16m(約9間)、舞台奥行(舞台框～水平線)は約8間、プロセニウム高さ9m(5間)とし、様々な演目に対応するとともに、袖舞台は十分な広さを確保します。舞台レベルを1FL+75cmとし、搬入車から搬入しやすい高さとしています。

舞台に近接した楽屋配置

- 舞台に近接して小楽屋、大楽屋を設置し、大人数の場合には2階の(仮称)ケヤキフオーラムや会議室を控室として利用可能とします。
- 楽屋廻り、楽屋廊下には鏡、姿見を適切に配置します。
- 楽屋廻りには適切に楽屋トイレ等の水廻りを配置します。

仮設花道の設置・床装置(オーケストラピット・迫り等)

- 1階席の一部の椅子を取り外し可能とし、上手、下手に仮設脇花道・仮設鳥屋囲いを設置可能とします。
- 床装置については将来設置が可能な対応を行います。



●舞台サイズ

●室内音響計画

音や声が明瞭に届くホール形状

- 1階席については、ホール形状の幅を広く確保し、出来る限り客席を舞台に近づけることで、直接音が大きくなるエリアを確保します。
- 2階バルコニー席についても出来る限り客席を舞台に近づけながら、音響的に不利なバルコニー下の1階客席については出来る限り少なくする配置としています。
- 秩父ミュージックパーク音楽堂との役割分担を考慮し、音楽堂とは異なる音響特性のホールとし、特に演劇等の明瞭さに配慮した計画とします。
- 音楽ホールから講演会まで、適度な長さの響きを確保するために、一人あたりの気積を8m前後とし、残響時間は1.1～1.5秒程度を目標とします。

音響反射板形式時

- アコースティック楽器を主体とするクラシック系の音楽用途に対しては、適切な音響反射板をセットすることで、意匠的にも音響的にも舞台と客席との繋がりを最適化した一体感のある音場を構成します。

幕設備形式時

- 軽音楽演奏、講演など電気音響設備を使用した催し物や、台詞を主体とした演劇等の催し物時については、明瞭かつ定位の良い音が求められます。直接音の確保と同時に、明瞭感を阻害する後期反射音の制御を行います。

●舞台機構設備計画

- ホールの装置類の昇降動作は原則としてすべて電動とし、より安全に配慮するとともに舞台演出上求められる繊細な動作等を満足する性能を有するものとします。
- 全国ツアーを行うような公演の招聘や自主制作公演などを想定した際にも対応できる機構設備とします。

吊物装置

- 照明機材を吊り込むライトバトンや任意のセット類を吊り込む吊物バトンや幕類を適切に設けます。

音響反射板装置

- 音響反射板には適切な音響性能を確保する吊台式を検討します。格納時に主舞台上の吊物計画の障害とならない格納方式を採用します。

●舞台照明設備計画

調光・負荷設備

- 舞台照明設備の調光器については、自己漏電検知機能を持つインテリジェント型とし、調光操作卓モニターで状況を確認できるものとします。
- デザイナー用簡易操作卓を用意し、舞台袖や客席内等で演出照明の調整作業が自在にできるものとします。
- 各負荷ポジションには一定の固定回路を配備し、演出上更に多くの回路が必要とされた場合に対応する「移動型調光器ユニット」を準備し、直回路電源および信号線により回路増設が可能なシステムとします。

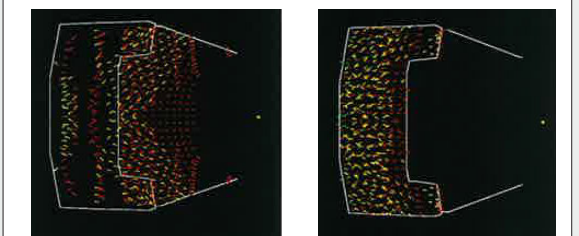
照明器具設備

- スポットライト類については静音性が高くかつ照度安定性の良い機材を採用します。LED照明機材についても環境配慮の観点から導入を検討します。
- 舞台上のみならず客席上部など各所に設置される負荷設備には、観客の頭上などに設置を行う場合もあり、すべての照明器具には二重の落下防止対策を施すものとします。
- ピンスポットライトのような床置大型機材は、地震時にも転倒や衝突によるガラス破損などを誘発しないよう、壁または天井から機材の振れ止め処置を行うものとします。

●舞台音響設備計画

- システムの中核となる音響調整卓には高音質なデジタル卓を設置することで、様々な音響シーンの保存・読込が容易に行えます。
- 舞台袖には可搬型のコンパクトなデジタル卓を採用することで、講演会や式典等の際に舞台袖のみで簡易な操作が行えます。
- スピーカーシステムは、高音質かつ遠達性が良い構成とし、どの席に対しても十分な音量と明瞭性が確保された拡声が可能となる構成とします。
- 入力系、出力系にはオーディオネットワーク技術を導入することで、高音質伝送を実現すると同時に、入力/出力回線の組み方を容易にして自由度を高めます。
- 演劇、軽音楽時には、持ち込み機材によるSR操作が可能のように、持ち込みスペース・回線・電源等を用意します。またスピーカの持ち込み時に固定設備スピーカとの連携を考慮したシステム構成とします。

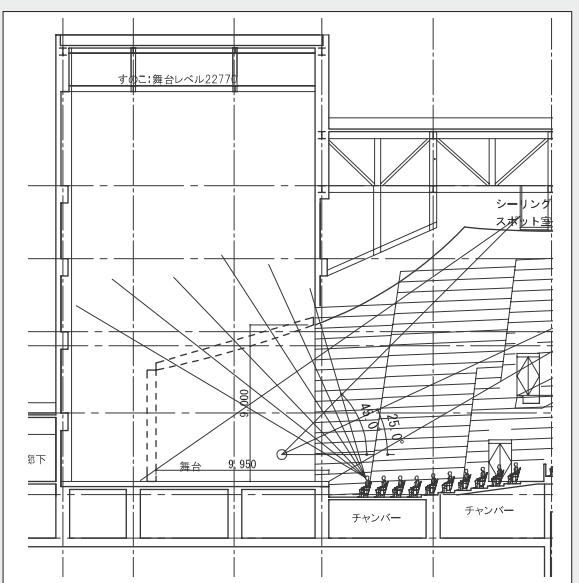
室内音響検討(0-50ms)



1階席                      バルコニー席

- 第一反射音    1階席、バルコニー席どちらも反
- 第二反射音    射音がバランスよく分散している。

●室内音響設備



●舞台機構